公益財団法人松山市文化･スポーツ振興財団

中期経営計画

2023 － 2027

2023 年(令和 5 年)1 月策定

目　次

1. 中期経営計画　2023～2027 のスローガン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 中期経営計画 2019～2022の実践事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3. 中期経営計画 2019～2022を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

4. 財団の強みと弱み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

5. 中期経営計画 2023～2027 が目指す財団のかたち・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

6. 中期経営計画 2023～2027　重点施策1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

重点施策2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

7. 実現に向けて・・・ 15

資料　管理施設及び事業の紹介　松山市総合コミュニティセンター・・・・・ 16

松山市民会館・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

松山中央公園・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

北条スポーツセンター・・・・・・・・・・ 19

松山市野外活動センター・・・・・・・・ 20

松山市立埋蔵文化財センター・・・・ 21

1.中期経営計画 2023～2027 のスローガン

‘‘ベストパートナー’’

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団（以下「財団」という。）は、財団の目的である「文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進し、創造性豊かで健全な市民生活の形成と、潤いと活力にあふれた地域社会の発展に寄与すること」を目指しています。

そのために、文化・スポーツ振興に関する普及啓発、埋蔵文化財の調査研究及び文化財保護の普及啓発、松山市から受託する文化・スポーツ施設の管理運営等の事業を実施しています。

私たち財団は、２０１５年(平成２７年)に第１期中期経営計画、２０１８年(平成３０年)に第２期中期経営計画を策定し、それぞれの計画に明確な目標を立て、着実に遂行してきました。しかし、２０１９年(令和元年)に発生した新型コロナウイルスの世界的大流行に伴い、私たちは行動を制限され、今まで普通にできていた人と人との交流が少なくなったことで、人の感情や行動に触れることの大切さに気づかされました。

私たちにできること。

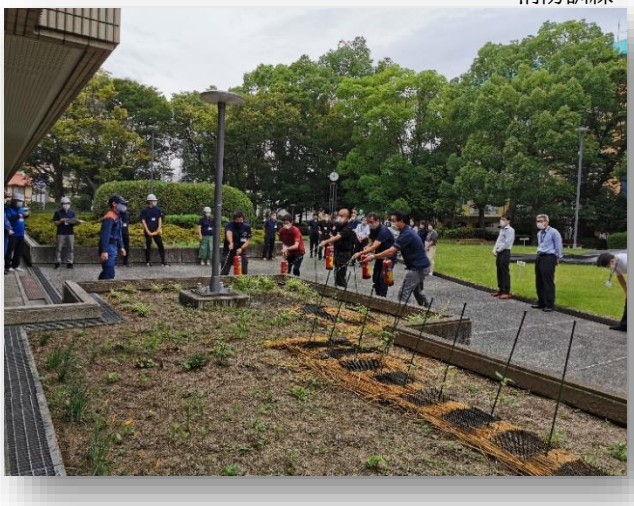
それは、人と人とのふれあいができる場を積極的に提供していくことと考えます。私たちは、市民の皆さまが、自由に、楽しく、安心して参加できるより良い環境をつくり、賑わいある施設の催しもの、心に潤いを与える文化事業、身体に健康をもたらすスポーツ教室の開催などに加え、世の中の多様なニーズに応えていくことを通じて、皆さまに寄り添い、豊かな心を育てる“ベストパートナー”になりたい。このような想いで、第３期中期経営計画２０２３～２０２７を策定しました。

また、私たちは、松山市が掲げる松山市スポーツ推進計画、松山市文化芸術振興計画、第４次まつやま教育プラン２１のさまざまな施策と連動した中期経営計画を実現するため、松山市と積極的に協働していきます。

2.中期経営計画 2019～2022の実践事項

・様々な研修の実施

消防訓練



接遇研修

新入職員フォローアップ研修

いざという時に備えて職員を対象とした消防訓練や救命救急研修などを実施し、市民や利用者が安心・安全に施設を利用できるように危機管理体制の強化を行いました。

・施設案内コンシェルジュサービス

松山市総合コミュニティセンターに施設案内コンシェルジュ窓口を開設し、利用希望者のニーズに沿った施設利用の提案や予約・空き情報の提供を行いました。

・WEB 説明会の実施

財団をより身近に感じてもらい、優秀な人材確保のため、実際に当財団で働いている先輩職員が WEB 説明会に出演し、日頃の業務で感じたやりがいや苦労、職場の雰囲気などを参加者と話し合いました。

・松山市文化芸術振興計画に則した事業の代謝促進

キッズジョブまつやま

e スポーツ体験

俳句教室

市民の文化芸術活動への興味・関心の喚起とすそ野拡大を図るため、文化芸術や伝統文化を学ぶ教室事業を実施しました。キッズジョブまつやまでは、小中学生が将来の仕事を疑似体験することで働くことの楽しさや厳しさを学ぶ機会を提供するほか、e スポーツ体験では、国体予選や体験会を実施することで年齢や性別、障がいの垣根なく多くの参加者が楽しめるイベントとなりました。

トップアスリート招聘事業

パラスポーツ体験会

・松山市スポーツ推進計画に則した事業の代謝促進

地元のスポーツ団体や大学との連携を深め、市民が気軽にスポーツに親しむ環境づくりを推進し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会の提供を通じて、市民に笑顔と活力を届けました。

・連携・協働事業の開催

地域社会や地元大学、スポーツ団体との連携・協働を推進し、お互いの強みを生かした事業を企画することで相乗効果が生まれ、質の高い事業を展開することができました。

愛媛大学連携事業

3.中期経営計画 2019～2022を振り返って

中期経営計画２０１９～２０２２では、財団が目指すべき姿の中に理想像を見い出し、理想像に少しでも近づくために４つ重点施策を設定しました。

さらに、４つの重点施策の達成に向けて達成度合いの見える化を図るため、数値目標を設定し、半期ごとに進捗状況を確認しながら適切な時期に適切な対応を取ってきました。

当項目では４年間を振り返り、次期中期経営計画に役立てていきます。

※当項目内の実績値は２０２２年（令和４年）度の見込み数値です。

重点施策1　施設の管理運営

市民共有の財産である貴重な市有施設を優良な状態で管理することは指定管理者として最優先すべき責務です。市民の皆さまに「安全に」、「楽しく」、「何度も」ご利用いただけるように最大限取り組みました。

＜施設マネジメント＞

施設の点検回数、修繕件数などを数値目標として設定し、市民の皆さまに「安全に」ご利用いただけるように努めました。当項目は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けることなく目標を大きく上回る結果（点検回数目標値：年間３６回、実績値：６８回）となりました。

施設の定期点検

＜安全・安心の取組＞

救命救急講習（上級）の受講者数、防災士の資格取得などを数値目標とし、市民の皆さまのご利用時における緊急対応に対処できるよう取り組みました。救命救急講習（上級）の受講者数は講習自体が中止となり、累計で達成することはできなかったものの、防災士の資格取得（防災士資格取得者目標値：１８人、実績値：３１人）を積極的に行った結果、全６施設が防災協力事業所に認証されました。

情報セキュリティ現地状況調査

＜サービスの向上＞

施設をご利用された市民の皆さまに、アンケートのご協力をお願いし、その結果から、課題を抽出し、解決に取り組みました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、来館者数が減少し、アンケート回収枚数の目標値（目標値：２，０００枚、実績値：１，５２４枚）に届きませんでした。今後はＷＥＢアンケートの実施も検討し、市民の皆さまのニーズに応えていきます。

＜収益向上＞
　使用料収入、稼働率、利用件数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を直接的に受け、未達成となりました。（６施設合計使用料収入目標値：４７８，４６７千円、実績値：３０２，４９４千円）

重点施策2　管理コストの引き下げと組織体制の強化

　管理コストの低減、質の高い施設運営に必要な組織体制の強化。また、組織を構成する職員一人ひとりの人材力と適正配置を実施しました。

＜業務品質の向上と管理コスト減＞
　業務の平準化や効率化を図るために研修会を部署ごとに開催（研修会実施目標回数／参加人数：８回／４０人、実績値：９０回／５６４人）し、業務品質の向上に努めました。また、経費削減及び環境問題の一環としてペーパーレス化推進のため、財団内の会議等はタブレットの使用を推進するなど管理コスト削減に努めました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、その対応に苦慮したことから人件費（時間外手当）は未達成（時間外手当目標値：２６，６４３千円、実績値：３２，８５６千円）となりました。

＜人材力の強化＞
　職階別研修、受付業務研修などを実施しました。特に受付業務研修は、各施設が独自に、また、職員個人のスキルアップのため資格取得（資格取得目標値：２４種、実績値：７７種）を積極的に展開しました。

＜経営管理機能の強化＞
　管理機能強化のため、主として総務部職員が積極的に外部研修へ参加しました。財源確保を目的とした助成事業の実施（実施目標事業数：６事業、実績値：４事業）は新型コロナウイルス感染拡大のため、主催事業が中止になったことから未達成となりました。

＜職員配置・人材採用＞
　優秀な人材確保を目的とした就職説明会への参加（参加目標回数：４回、実績値：０回）は、説明会自体の中止により未達成となりました。
　しかし、自ら主催するＷＥＢ説明会を初めて実施（４回）するなど、コロナ禍だからこそ実施できた取組が見られました。

受付業務研修

重点施策3　事業の企画力と情報発信力の強化

市民ニーズを的確に捉え、松山市の施策を後押しできる文化・スポーツ活動の推進を行うとともに、適正な受益者負担による参加料等収入の増加を目指しました。

また、様々な媒体による情報発信を行い、市民の皆さまに私たちの取組を広く知っていただく活動を実施しました。

＜事業分析と企画・実施＞

市民のニーズを捉えるために実施したアンケート調査を積極的に展開した結果、回収率（回収率目標値：５０％、実績値：７３．８％）は、目標を大きく上回りました。アンケート結果を反映した事業は、予算化したものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となりました。

＜事業の再構築＞

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、事業の中止が相次いだためスクラップアンドビルドが困難となり、目標には届きませんでした。

（文化事業目標値：新規２０事業／統廃合２０事業、実績値：新規１３事業／統廃合７事業）

（スポーツ事業目標値：新規２８事業／統廃合２８事業、実績値：新規２２事業／統廃合１２事業）

＜参加料収入増による収益向上＞

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、事業の中止が相次いだため収益は向上しませんでした。（参加料収入目標値：１２，３８０千円、実績値：２，５７８千円）

＜情報発信強化＞

ホームページはもちろんのこと、インスタグラム、フェイスブック、ツイッターなどのＳＮＳを利用した情報発信を積極的に行いました。（情報発信目標値：年３００回、実績値：年８７３回）

＜その他＞

WEB 申込システム「カルスポねっと」

事業が相次いで中止となる中で、ＷＥＢによる事業申込システム「カルスポねっと」を構築することができました。２０２２年（令和４年）１１月現在、本システムには、約３千人の登録があります。

また、新型コロナウイルス感染拡大が始まった早い段階で、財団独自のガイドラインを策定し、その基準に基づいて事業実施・中止の判断を行い、利用者には公平で安全な対応を取りました。

重点施策4　連携力の強化

多様化するニーズに対応するためには、財団内のノウハウ、専門性を十分に発揮する必要があります。しかし、財団単独では限界もあるため、他団体、地域との連携、協働体制を整えました。

また、２０２２年（令和４年）４月に旧松山市スポーツ協会との合併に伴い、新たなノウハウを取得し、より幅広い活動を推進しました。

＜協働体制の推進＞

２０１７年（平成２９年）、聖カタリナ大学・同短期大学部と地域活性化連携協定を締結し、２０２２年（令和４年）には、国立大学法人愛媛大学と包括連携協定を締結しました。また、地域に根ざしたプロスポーツ団体、各種スポーツ協会、四国地区埋蔵文化財センター、松山芸能文化協会、松山市小中学校ＰＴＡ連合会など数多くの組織・団体と広く協働関係を構築し事業に取り組みました。

JAL 折紙ヒコーキ教室

ひめぎん卓球クリニック

第1回鍵盤楽器コンサート

道後温泉卓球大会

ふれあい将棋大会

親子で運動教室

4.財団の強みと弱み

【SWOT 分析】

当財団の運営状況と外部環境から、財団の「強み（Strength）」と「弱み（Weakness）」及び「機会（Opportunity）」と「脅威（Threat）」について整理し、これらの要素をクロス分析（SWOT 分析）することにより、財団における成長戦略、回避戦略、改善戦略、転換戦略について検討しました。

	【機会】 ・文化・スポーツへの関心の高まり ・多種多様な団体との結びつき ・知名度の高い施設の管理運営	【脅威】 ・コスト高 ・競合他社の参入 ・施設の老朽化 ・指定管理の公募化
【強み】 ・地域や大学、松山市との連携の強さ ・指定管理業務を任されてきた長年の実績 ・高い公共性 ・低価格サービス	＜成長戦略＞ 機会を取込み、強みを活かす ・施設の魅力を最大化 ・地域との連携 ・コミュニティの醸成	＜回避戦略＞ 強みを活かし、脅威を機会に変える ・サービス向上 ・安全管理の徹底 ・行政施策に則した事業展開
【弱み】 ・非効率的業務 ・コスト意識の低さ ・情報発信力の低さ ・職員の高年齢化	＜改善戦略＞ 機会を活かし、弱みを克服する ・職員のスキルアップ、研修 ・SNS の活用 ・利用者ニーズの活用	＜転換戦略＞ 弱みを補完し、脅威に備える ・デジタル化 ・意識改革 ・財源の確保

・中期経営計画策定会議

各部署から集まったメンバーにより、財団をとりまく現状の分析と課題を克服するための戦略について協議を重ねました。

5.中期経営計画 2023～2027 が目指す財団のかたち

2022年度（令和 4 年度）

第2期中期経営計画 2019-2022 の
取り組みと今後の課題（p4-p7）

財団が目指す姿

1　より安心、より安全、より快適な施設運営で新しい時代へ！

2　市民とともに創る「心を潤す文化」・「親しみあるスポーツ」を！

2つの重点施策

重点施策1	安心・安全・快適　魅力を最大限に活かす施設の運営
重点施策2	市民・地域・世代　利用者ニーズに先駆ける新たな事業の展開

2027年度（令和 9 年度）

6.中期経営計画 2023～2027 重点施策

実施計画の期間と進行管理

実施計画の期間は、2023年度（令和5年度）から 2027 年度（令和9年度）の5年とします。
なお、社会情勢や市民ニーズの変化に柔軟に対応するとともに、高い実効性を確保するため年度ごとに成果の検証と見直しを行い、経営計画の実現に向けて取り組みます。

重点施策1　安心・安全・快適　魅力を最大限に活かす施設の運営

財団が管理運営している公共施設は、供用開始から多くの市民に愛され、年間の利用者数は多い年で200万人を超える来場があります。

しかしながら、全国的に見ても公共施設の多くが建設から 30 年以上経過し、老朽化や、価値観の変化への対応などが社会的な課題となっており、当財団が管理する施設でも歴年の課題に対して同様に取り組む必要があります。

施設機能を維持、あるいはアップデートし、今後も多くの市民に利用していただける施設とするためには、利用者とのコミュニケーションを大切にし、声を拾い上げることと、職員による日頃の点検・整備が不可欠です。

重点施策1では、人材の活用と育成、ニーズの変化への対応に着目し、10の指標を定めることで「安心・安全・快適　魅力を最大限に活かす施設の運営」の実現を目指します。

○数値目標1　施設利用者数			
施設を利用していただいた方の人数。管理施設に多くの市民が訪れ、有効活用されているかの度合いを計る。			
現状値 2021 年度（令和3年度）	2027年度（令和9年度）	指標の説明	算出方法
272,460 人	720,000 人	松山市総合コミュニティセンター	実数
152,427 人	336,640 人	松山市民会館	
371,638 人	616,100 人	松山中央公園	
109,797 人	115,372 人	北条スポーツセンター	
107,155 人	170,800 人	松山市野外活動センター	
7,660 人	21,269 人	松山市立埋蔵文化財センター	
1,021,137 人	1,980,181 人	合　計	

○数値目標２　施設使用料収入			
多くの利用者に支持される施設を目指し、収入の向上を図る。			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
126,119 千円	208,500 千円	松山市総合コミュニティセンター	実数
60,307 千円	92,419 千円	松山市民会館	
104,051 千円	140,451 千円	松山中央公園	
13,181 千円	17,000 千円	北条スポーツセンター	
17,758 千円	27,770 千円	松山市野外活動センター	
132 千円	677 千円	松山市立埋蔵文化財センター ※観覧料を目標値とする。	
321,548 千円	486,817 千円	合　計	

○数値目標3　利用者１人あたりの施設運用コスト			
現状値 2021 年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
利用者１人 1,523 円	利用者１人 868 円	施設管理に係る費用（指定管理料）を参照とし、利用者１人あたりの年間管理コストを指標とする。	施設の指定管理料÷施設の利用人数

○数値目標4　顧客愛着度・信頼度（NPS スコア）			
現状値 2021 年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
－pt	1pt	利用者が施設についてどの程度愛着や信頼を持っているか、施設利用者アンケートから調査し、数値化したもの。 初年度は対象となる指標がないため、令和5年度の調査結果から毎年＋1pt の向上を目指す。（推定値ではマイナス）	施設の推奨者（%）－施設の批判者（%）

○数値目標5　アンケートから抽出された課題への取り組み			
現状値 2021 年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
19 件	20 件	アンケート調査等により拾い上げた利用者の声から、時代に沿った施設へのアップデートを目指す。	累積実数

○数値目標 6　施設内外の定期点検回数			
現状値 2021 年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
68 回	80 回	予防保全の考え方のもと施設の点検・診断を定期的に行いトラブル発生の防止に努め、管理コストの平準化と施設の長寿命化を図る。	実数

○数値目標 7　事故ゼロへの取り組み			
現状値 2021 年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
0 件	0 件	施設の不具合を原因とする事故やケガの発生件数 ※スポーツ活動プレイ中のケガ等は除く。	実数

○数値目標 8　施設運営のための研修			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027 年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
年 114 回	年 106 回	施設を安全・快適・公平に利用していただくため、職員のスキルアップや考え方の共有を図る。	実数

○数値目標 9　救命講習の受講修了者数			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
10 人	33 人	上級・普通救命救急講習の修了者配置数を増やし施設運営の「安全・安心」を向上させる。	実数

○数値目標10　利用資源の削減（環境への取り組み）			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
100% （過去5年平均）	70%	循環型社会形成のため、電子決裁やウェブメール等を活用し事務書類のデジタル処理を進め、施設運営で使用する OA 用紙の削減を行う。 過去5年平均の調達量を100%とし、令和9年度までに 30%削減する。	実数

上級救急救命講習

職員による施設の点検

重点施策2　市民・地域・世代　利用者ニーズに先駆ける新たな事業の展開

財団では市有6施設において、年間約120の事業を展開しており、これら事業への参加者は年間約8万人に上ります。これまでにも幼児から高齢者まで幅広い世代の参加者に文化・スポーツを身近に感じていただけるよう多種多様な事業を展開しました。

これからも市民の皆さまにとって、財団がより身近な存在となるよう、年齢や性別、障がいの有無を問わず、誰もが文化・スポーツに取り組むことができる機会づくりを推進することで、より興味関心を深め、親しみやすい環境づくりに取り組みます。

また、時代の流れに柔軟に対応し、ニーズに沿った事業を展開するためには、多方面にネットワークを張り巡らせ、市民の声を汲み取り反映するための体制が求められます。

重点施策2では、文化・スポーツの振興、時代に即した対応、ICT 技術の活用に着目し、10の指標を定めることで「市民・地域・世代　利用者ニーズに先駆ける新たな事業の展開」の実現を目指します。

○数値目標1　実施した総事業の参加人数（公益目的事業1）			
現状値2021年度（令和3年度）	2027年度（令和9年度）	指標の説明	算出方法
11,764 人	65,918 人	より多くの市民が文化に出会い、参加する機会を提供するため、世代を問わず誰もが気軽に参加できる事業の展開を目指す。	実数

○数値目標2　実施した総事業の参加人数（公益目的事業2）			
現状値2021年度（令和3年度）	2027年度（令和9年度）	指標の説明	算出方法
15,604 人	52,326 人	より多くの市民がスポーツに出会い、参加する機会を提供するため、世代を問わず誰もが気軽に参加できる事業の展開を目指す。	実数

○数値目標3　実施した総事業の参加人数（公益目的事業3）			
現状値2021年度（令和3年度）	2027年度（令和9年度）	指標の説明	算出方法
27,505 人	66,117 人	より多くの市民が古代の生活文化を体験し、地域の歴史への関心を高めるため、世代を問わず誰もが気軽に参加できる事業の展開を目指す。	実数

○数値目標4　「カルスポねっと」の登録者数			
現状値2021年度（令和3年度）	2027年度（令和9年度）	指標の説明	算出方法
1,600 人	2,100 人	令和3年より運用を開始した WEB申込システムの活用を推進することで情報発信力の強化、市民の利便性を向上する。（ねっと ID は2年間使用しないと自動で削除される。）	実数

○数値目標5　特定費用準備資金を活用した事業運営			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
0 円	250 万円	将来の事業活動目標を明確に定め、安定した運営を行うため資金を積み立てることを目的とする。	累積実数

○数値目標6　情報セキュリティ現地調査の実施			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
100%	100%	情報セキュリティポリシーに基づき、情報資産に関する管理体制を適正に運用することを目的とする。	実数

○数値目標7　助成事業数			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
3 事業	20 事業	事業運営の財源を確保するため、外部からの助成金の活用に努める。	累積実数

○数値目標8　SNS を活用した情報発信数			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
448 回	572 回	YouTube やインスタグラムなどの SNS を活用した情報発信力を強化することで、広く財団を PR することを目的とする。	実数

○数値目標9　連携事業への参加者数			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
6,276 人	19,982 人	地域や大学等教育機関、民間企業等のノウハウを積極的に活用し、双方の強みを生かした事業を展開することを目的とする。	実数

○数値目標10　助成･育成事業による支援者件数			
現状値2021年度 （令和3年度）	2027年度 （令和9年度）	指標の説明	算出方法
128 件	208 件	生涯スポーツの振興やスポーツ指導者の育成などを図るため、地域スポーツ団体や種目団体、スポーツ少年団などスポーツ活動に取り組む個人や団体を支援することを目的とする。	実数

7.実現に向けて

１．計画の進行管理

第３期となる中期経営計画では、重点施策として「安心・安全・快適 魅力を最大限に活かす施設の運営」と「市民・地域・世代 利用者ニーズに先駆ける新たな事業の展開」の２施策を掲げ、数値目標として２０の目標を設定しました。

今後５年間の数値目標を達成し、重点施策を実現することで、「財団が目指す姿」に到達することができるよう事業に取り組みます。

この計画の実効性を担保するために、毎年度、各課が数値を集計し、進捗管理担当課が取りまとめ、検証を行うとともに、数値目標の進捗状況や社会情勢、松山市の施策に関する動向や財政状況等の変化に柔軟に対応し、進行管理を行います。

２．これからの財団

財団は、文化・スポーツを総合的に振興することにより、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進し、創造性豊かで健全な市民生活の形成と、潤いと活力にあふれた地域社会の発展に寄与することを目的に掲げ、職員一丸となり日々邁進しています。このたび、第３期中期経営計画では、財団の目的を達成するために、「より安心、より安全、より快適な施設運営で新しい時代へ！」と「市民とともに創る心を潤す文化・親しみあるスポーツを！」を目指す姿として掲げ、職員一人ひとりが市民目線を大切にして真摯かつ誠実に職務を遂行し、重点施策に設定される目標値の達成を目指すことで、計画を実現したいと考えています。あわせて、施設を管理運営するスキルと事業を立ち上げ展開していくプロセスに、新たな人材による視点を加え、時代にマッチした取組を行っていくことにより、利用者の満足度を高めるとともに、財団のさらなる発展につなげていきます。

一方、財団は、職員の大量退職期を迎えており、ノウハウの消失や労力の低下が見込まれるため、職員の人材育成と職場環境の整備は、財団にとって課題となっており、現在、職員の若返りが図られている途上です。このため、育児・介護休暇の取得や短時間勤務の促進等、さまざまな勤務形態の導入に取り組むことで、仕事だけでなく職員の「生活」を充実させ、働きやすい職場環境を創出していきます。

私たち財団は、現状に甘んじることなく、市民の皆さまにより良いサービスを提供できるように、また、松山市や他団体・地域との連携をより強固にし、あらゆるニーズにお応えできるように、そして、職員がいきいきと働くことができるように、皆さまの「ベストパートナー」として存在意義を高めてまいります

松山市総合コミュニティセンター

当センターは、「コミュニティプラザ」をはじめ「研修会議室」、「文化ホール（キャメリアホール）」、「中央図書館」、「こども館・温水プール」等の施設からなり、文化の向上や生涯教育、さらに健康増進の拠点として、お年寄りから子どもまでのライフスタイルに合わせてお気軽にご利用していただき、人と人とのふれあいの和がさらに広がる場として市民に活用されています。

主な事業（一例）

幼児のためのクラシックコンサート

ソプラノ歌手やバイオリン・サックスなどの演奏家による幼児でも楽しめるクラシックコンサート

市民ミュージカル

約 30 年の歴史を誇る市民参加型ミュージカルの公演

キッズジョブまつやま

松山市小中学校 PTA 連合会と連携し、市内小中学生がさまざまな職業を体験

坊っちゃんカップ・道後温泉卓球大会

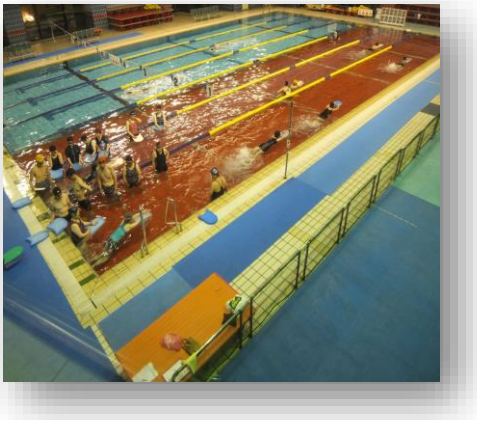
中高齢者を対象にラージボールを使用する全国規模の卓球大会

キッズスポーツプロジェクト

子どもたちに色々なスポーツに出会う機会と挑戦する場を創出

各種教室（親子リズム、水泳、アクアエアロビクス、バランスボール、ピラティスなど）

体育館、プール、こども館を使用したさまざまな教室



松山市民会館

当館は、1965 年（昭和40年）に開館してから市民文化の拠点施設として、多彩なイベントの発信基地の役割を果たしています。大・中・小、3つのホールを持ち、音響、照明等、設備面の充実と使いやすさから今なお、松山市の文化の殿堂として多くの利用者、市民に愛され、親しまれています。

主な事業（一例）

「こどもおけいこ教室」伝統文化こども伝承事業

伝統文化の活性化を図るため、子どもたちへ伝統文化に触れる機会を提供する。三味線、お琴、将棋、狂言、尺八、競技かるたなどの各種教室

ゴスペル教室

大人数で楽しく歌うことで歌を好きになることができる教室

ペン習字教室

苦手意識を克服し、“魅せる”文字を書くことができるようになる教室

はじめての絵手紙教室

筆、墨、絵の具等を使った手書きのコミュニケーションが取れることを楽しく学べる教室

カメラ教室

デジタル一眼レフカメラの基本的な操作を学ぶ初級編と一歩踏み込んだ内容を学ぶ実践編教室

バックステージツアー

幅広い世代に、舞台裏の音響や照明機材のほか舞台セットを組み上げていく工程等の体験を行う。

松山中央公園

当園は、21世紀の運動公園に求められる姿として「健康づくりは世代を超えたみんなの願い」をコンセプトとして、緑あふれる豊かな自然のもとにあらゆる人々が四季折々に集い、スポーツやレクレーションをつうじて心と身体の健康づくりを図る交流の場にしたい、そんな思いを具現化する施設です。スポーツ施設として、野球場・プール・テニスコート他さまざまな施設を完備しています。

主な事業（一例）

坊っちゃんランランラン

中央公園を出発点としたハーフマラソン、車いすマラソン大会

アクアチャレンジクラブ

時間帯、種目、レベル別及び水泳を応用した水泳、水中ダンベル、アクアビクス、ノンストレススイミング、らくらくバランス体操など多種多様な教室を開催

キッズスポーツプロジェクト

子どもたちに色々なスポーツに出会う機会と挑戦する場を創出

ランニング事業

安心して楽しく続けられる練習プランの提供など市民のジョギングライフをサポートする教室

各種教室（テニス、フィットネス、ストレッチ＆筋トレ、ピラティスなど）

中高齢者を対象としたロコモティブシンドローム予防のための教室など

北条スポーツセンター　北条体育館・武道館

当センターは、北条風早地区の海岸線を望む地にあり、松山市内北部地域におけるスポーツの活動拠点として建設されました。サッカー・ラグビー等使用可能な天然芝の陸上競技場、JFA公認の球技場、また、2016年（平成28年）4月には、様々な目的にご利用いただける野球場も2面完成し、より多目的にご利用いただける施設です。

主な事業（一例）

スポーツ・レクリエーションフェスティバル in 風早

聖カタリナ大学と連携し、松山市北部地区の市民が楽しめるレクリエーション大会

身体障がい者スポーツ交流大会

健常者と障がい者がスポーツをつうじて交流する大会。障がい者スポーツの普及発展と共生社会の実現に貢献する。

タグラグビー交流大会

松山市北部地区で盛んなタグラグビーの普及と初心者向けの教室、交流試合

キッズスポーツプロジェクト

子どもたちに色々なスポーツに出会う機会と挑戦する場を創出

キッズ野球体験会

初心者を対象とした野球教室を実施する。

各種教室（風早元気、フィットネス、成人スポーツなど）

高齢者の健康増進、中高齢者、初心者を対象とした各種教室

松山市野外活動センター（レインボーハイランド）

愛称「レインボーハイランド」として親しまれる当センターは、スクールゾーン・キャンプゾーン・アドベンチャーゾーンの 3 つからなるどなたにもご利用いただける複合施設です。45ha の面積と 920 人の宿泊能力を誇り、ローラースライダーやアスレチック広場、また多目的グランド・テニスコートなど遊び場が充実しています。雨天キャンプファイヤー場や体育館など、悪天候でも楽しめる施設もあり、遊び道具やレンタルのキャンプ用品がそろっています。

主な事業（一例）

森の陶芸教室

地元陶芸家の指導でお皿やコップなどを作成し、自分が作った陶芸で料理や飲み物を楽しむ教室

各種キャンプ

（親子わくわくデイキャンプ、ファミリーオートキャンプなど）

日帰りでテント設営や薪を使用したアウトドアクッキングから1泊して本格的にキャンプを楽しむもの

また、参加者形態を家族に限定したキャンプなどアウトドアニーズにお応えする事業

ゆったり過ごす焚き火の夕べ

キャンプ場での焚き火の楽しみ方を体験

エンジョイホリデーイベントシリーズ

ホテル観察、春の大収穫祭、夏の大収穫祭、秋の大収穫祭、お月見会、ふたご座流星群観望会、ミニ門松作りなど、子どもたちに色々なスポーツに出会う機会と挑戦する場を創出

タケノコ掘りまつり

センター敷地内の竹林でタケノコ掘りを体験

松山市立埋蔵文化財センター　松山市考古館

当センターは、埋蔵文化財の発掘調査の拠点として、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究及び資料の整理・保存・収蔵・公開を行っています。先人から受け継いできた数多くの埋蔵文化財を保存し、後世に伝えていくことが私たちの使命と考えます。また、松山市考古館は研究者のための専門機関としてだけでなく、一般市民や観光客が気軽に憩いの場として利用でき、かつ児童生徒の校外学習の場としての役割を担っています。

主な事業（一例）

考古館出前講座

学校、公民館、児童クラブ等に出向き、地域の遺跡紹介、出土品に直接触れる機会の創出

考古学リレー講座「発掘　松山の至宝」

センター職員、市教育委員会職員や外部講師による遺跡の解説や現地見学会の実施

古代体験教室

勾玉づくりや火おこし体験など、77種類のプログラムから選べる教室

親子考古学教室

小学生とその保護者を対象にお役で考古学や地域の歴史、遺跡を知る教室

展示（ロビー展、発掘へんろ展、古代いよ発掘まつり、特別展など）

考古館ロビーや展示室など開催する展示事業。四国内の埋蔵文化財センター5 団体合同で巡回展を開催する「発掘へんろ展」、愛媛県埋蔵文化財センターと共同主催の「古代いよ発掘まつりなど発掘出土品などの展示と解説及び講演会などを実施